認定特定非営利活動法人REALE WORLD

**令和5年度（2023年度）事業報告書**

**１．事業の成果**

　①「文化スポーツなどを通して子どもの心を育む事業」においては、以下のような成果が得られました。

・日本の少年サッカーチーム「FCレアーレ」では、サッカーを通して子どもたちの心身を育むと同時に、当団体主催のサッカー大会の際は地元の商店街へのポスター配布やラジオ出演、また、グラウンドの芝植え活動や整備活動などの社会活動も積極的に行い、子どもたちが自ら考え行動する力を身につける機会を提供しました。

・幼児から小学低学年を対象とした運動スクールとして「走り方教室」を月2回のペースで開催。楽しく体を動かしながら、より良い「走り方」を学びつつ、ゴールデンエイジの子どもたちの総合的な運動能力を伸ばすことに貢献しました。

・小学生を対象に、コミュニケーションツールとしての英語を学ぶオンラインクラスを週1回のペースで開催。その際にFCレアーレ・ネパールのコーチや関わりのある外国人と英語でコミュニケーションする機会も取り入れ、文法の正しさよりも言いたいことが伝わることを重視。子どもたちの英語への苦手意識が軽減しました。

・中学生〜社会人で構成されるサッカーチーム「FCレアーレ」トップチームをスタート。サッカーチームとして活動しながら、社会貢献（子どもたちの指導やイベントでのボランティア）活動にも積極的に参加し、子どもの健全育成のために貢献しました。

・ネパールで運営しているサッカーチーム「FCレアーレ」では、子どもたちの体力向上を果たすとともに、グラウンド清掃や挨拶など、生活習慣の向上がみられました。

・ネパールでは子ども向けのサッカーの指導ができるコーチが不足していることから、子どもの指導に特化したコーチ育成講座を開催。キッズサッカー指導基礎レベルおよび中級レベルの講座を開催し、コーチの質の向上を図り、子どもたちにより質の高い指導を提供できるようになりました。

・ネパールにて、12月から2月にかけて、地元の小学生を対象にサッカー大会を開催。試合の機会が少ないネパールの子どもたちに、日頃の練習の成果が発揮できる試合の機会を提供することで、子どもたちのモチベーションを高めることができました。

・ネパールでは、体育の実技の授業のない学校が多く、首都であるカトマンズでは、子どもの運動不足が問題となり始めています。そこで、昨年度から学校と連携、レアーレワールドのコーチたちを派遣し、体育の実技授業を実施。今年度は２つの学校(Advance School/Shankhadar Memorial School)と１つの幼稚園(Glowing Kids Montesswori)で実施。子どもたちにとって身体と脳、両方をバランスよく活性化することの大切さを少しずつ実感してくれる教育機関が増えており、心身のバランスの取れた子どもの健全育成の重要性への関心を高めることに貢献しました。

・「FC レアーレ」の活動拠点となるグラウンドについて、コンサル契約を結び、コミュニティづくりに関する助言、プロモーションに関する助言をいただきながら、今後5年間にわたってスポーツや文化を通して、人々が心身ともに成長できるグラウンドづくりを進めていくことになりました。今年度は、「FC レアーレのジュニアの選手からご近所の方々まで、自由に体を動かせる天然芝のグラウンドづくりまで漕ぎ着けることができ、子どもたちにいつでも自由に練習できる環境を提供することができました。

・「FC レアーレ」の活動拠点となるグラウンドの移動式管理事務所を改装しました。

　②「心身の健康増進、コミュニケーション能力の活性化に関するワークショップ事業」では、コロナ禍を経て、コミュニケーションに不安を抱える人が増えている状況の中、自己表現力やコミュニケーション能力の向上のための講座を提供。多くの参加者の学校や職場、家庭での生活の質の向上に貢献しました。

　③「海外の文化、歴史を学び相互理解を深める国際交流事業」に関しては、以下のような成果が得られました。

・サッカーシューズやユニフォーム等の寄付を通して、日本と途上国の子どもたちの交流を図るプロジェクトでは、ケニアとエチオピアとネパールにて活動を行いました。

・ケニアでは、ナイロビのキベラスラムにて少年サッカークラブ「GO GO KIBERA」を運営するサントスさんを通して、選手たちにシューズを寄付し、今後のより良い運営のため、相互のサッカークラブの運営状況や課題をシェアすることができました。また、ケニアの養護施設などを訪問し、子どもたちと交流しました。

・12月は、15歳以下対象の国際交流サッカー大会をネパールにて開催。日本から来た小学生から高校生までの12人とマディプールティミ市の48人の青少年が、合同チームを作り、2日間同じチームでプレーすることで、交流を深め、互いの文化をより深く理解することができました。

・1月は、女子サッカーU19ネパール代表と交流。代表に選ばれた地方の村から出てきた女子選手にシューズをお届けし、国際試合に向けての練習に役立ててもらいました。

・ネパールのマディプールティミ市の子どもたち、およびネパール東部のイラム郡の村のサッカークラブの子どもたちと交流。前者には、日本から託されたユニフォームを、後者には日本から託されたシューズとボールとウエアをお届けしました。

・「FCレアーレ」ネパールの卒業生で、プロ選手となった選手1名を日本に招聘。日本の「FCレアーレ」の社会人チームやジュニアチームの練習に参加してもらい、サッカートレーニングを通して日本の選手たちと交流しました。

・ネパールの「FCレアーレ」協力者のネパール人夫妻を日本に招聘。ネパール料理教室をはじめとする文化交流を伊東、開田高原、東京で行いました。

・ブータンに1名、ドイツに1名、モンゴルに1名、ポーランドに2名の日本の選手を派遣し、海外でのサッカー交流、文化交流活動を行い、その経験で得たことを日本の子どもたちにシェアし、文化交流の架け橋となってくれました。

・理事2名がドイツのプロクラブを視察。欧州スタイルのチーム運営についての知識を深めるとともに、現地のクラブチームの運営者やコーチ、選手たちと交流し、クラブ運営についての意見交換をしました。

・日本の子どもたちとネパールの子どもたちのオンラインを利用した交流会を１回開催しました。交流を通して、それぞれが相手の文化や生活を知り、視野を広げることができました。

・レアーレワールドの支援者や希望する学生やアスリートを対象に「FCレアーレ」ネパールの子どもたちとの交流会や、朝練参加をコーディネイトし、観光旅行では体験できない国際交流の場を提供しました。

④「職業能力、開発、雇用機会の拡充の支援から生まれる物販事業」では、2023年度もネパールコーヒー販売を継続し、ネパールのコーヒー農業における環境問題の解決に寄与し、ネパールにおける社会的弱者である女性の雇用機会拡充に貢献することができました。また、昨年度に引き続き、マルシェなどへの出店も積極的に行い、ネパールコーヒーを通して、ネパールの抱える問題への理解を深めていただき、国際協力の必要性をアピールすることができました。

⑤「イベント主催、イベント出展、機関紙の発行などの普及啓発事業」では、以下のような成果を得ることができました。

・「本気と社会貢献」をテーマにしたサッカー大会「レアーレカップ」（10歳以下）を11月25日、26日の2日間にわたって開催し、静岡県から5チーム、県外から３チームに参加いただき、本気になることの大切さや社会貢献、国際協力について、子どもたちはもちろん、保護者や観客、スタッフ全員に学んでもらうことができました。

・7月22日に、グラウンド予定地にて、交流イベントを開催。食育セミナーも同時開催し、心、食、身体が密接に関係していることについて、参加者全員に学んでいただき、子どもから年配者までが交流しました。

・リーダー研修の一環として海外のサッカー指導者やリーダーを対象に、アスリートのための食育セミナーを開催。青少年に対するサッカー指導における食育の重要性について、ネパールとブータンの指導者への指導及び意見公開を行い、より心身のバランスの取れた育成指導について知識を深めました。

・西南学院大学サッカー部広報のメンバーを企画運営チームに迎え、主に大学生をメインターゲットとし、5月、6月、8月に3回開催。毎回、異なるゲストにご自身の経験をシェアしていただき、参加者の方に、視野を広げ、価値観をアップデートする機会を提供するとともに、レアーレワールドの活動について紹介することができました。

　⑥「目的を同じくする団体支援活動」では、アジアでサッカーを通した草の根活動を行う浦和レッズハートフルクラブのネパールツアーを、現地の学校との交渉や、通訳の手配などのコーディネイトを行うことで支援させていただきました。

⑦「その他目的を達成するために必要な事業」では、長野県の開田高原にある木曽町における農業体験プログラムを試験的に実施。新しい体験を求める都会の人々と、若い活力を必要とする過疎化が進む農村を結びつけ、参加者の方には自分を見つめ直す機会を提供し、同時に農村の関係人口増加を図る試みを行いました。木曽町の役場ともミーティングを重ね来年度も同プロジェクトを実施することが決まっています。

**２．事業の実施に関する事項**

(1)特定非営利活動に係る事業

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **定款の事業名** | **事業内容** | **実施日時** | **実施場所** | **従業者の人数** | **受益対象者の範囲及び人数** | **事業費の金額(千円)** |
| 1. 文化スポーツなどを通して子どもの心を育む事業 | ・小学生、中学生を対象にしたサッカーチームの運営（日本）  ・幼児〜小学校低学年を対象にした運動スクール（日本）  ・英会話クラス（日本）  ・中学生〜社会人を対象にしたサッカーチームの運営  ・小学生〜高校生を対象にしたサッカーチームの運営と生活指導及（ネパール）  ・キッズサッカー指導者育成（ネパール）  ・少年サッカー大会企画運営(ネパール)  ・学校の体育実技授業への講師派遣（ネパール）  ・グラウンドコンサル契約  ・グラウンド管理棟の改装 | 週5日  月2回  週1回  毎週2日  週6日  4月＆11月  12月〜2月  週4日  通年  12 月〜3月 | 対島中学校  伊東市民運動場  池小学校／ロロシトアグラウンド  オンライン  伊東市民運動場  三島市民グラウンド  ネパール・バクタプル郡グラウンド  ネパール・バクタプル郡グラウンド  ネパール・バクタプル郡グラウンド  ネパール・バクタプル郡の私立学校 Advance　school/Shankhadar Memorial School /Glowing Kids Montesswori  伊東市富戸  伊東市富戸 | 8人  1人  2人  2人  4人  1人  15人  6人  2人  4人 | 伊東市及び近郊の小中学生52人  伊東市の幼児〜小学生20人  伊東市の小学生　15人  伊東市及び近郊の中学生〜社会人19人  バクタプルの6歳〜18歳の青少年150人  バクタプルの青年15人  バクタプルの8歳〜15歳の青少年130人  バクタプルの8歳〜18歳の生徒550人  伊東市及び近郊の小中学生52人  一般23人  伊東市及び近郊の小中学生52人  一般23人 | 8,296  23  0  1,352  1,992  333  729  999  4,000  7,058 |
| ②心身の健康増進、コミュニケーション能力の活性化に関するワークショップ事業 | ・「自己表現」講師  ・「世界を舞台に生きるためのコミュニケーション」講師 | 4月〜11月（月に2回）  3月18日 3月29日 | オンライン  オンライン  オンライン | 2人  １人  １人 | 一般約12〜40人／回  一般45人  一般39人 | 23  0  0 |
| ③海外の文化、歴史を学び相互理解を深める国際交流事業 | ・ケニアでの国際交流事業  ・ネパールでの国際交流事業（少年サッカー大会）  ・ネパールでの国際交流事業（U19女子サッカーネパール代表と交流会）  ・ネパールでの国際交流事業（地域の子供達との交流）  ・海外の選手を日本に招聘しての国際交流  ・外国人を日本に招聘しての国際交流  ・海外のチームに日本の選手を派遣しての国際交流  ・ドイツ視察  ・日本の子どもとネパールの子どものオンライン交流 | 2月14日〜22日  12月25日、26日  １月25日  4月3日〜16日  6月28日〜7月12日/8月9日23日  7月17日〜8月9日  通年  3月1日〜  11日  7月８日 | ケニア・ナイロビ市  ネパール・バクタプル郡・SOS school校庭  ANFAスタジアム（ネパール・カトマンンズ）  ネパール・バクタプル郡、イラム郡  伊東市  伊東市、長野開田高原、東京  ブータン  ドイツ  モンゴル  ポーランド  ドイツ・メッペン、ボルシア、マインツ、ミュンヘン、メルクル、デュッセルドルフ  オンライン | 1人  12人  3人  3人  2人  4人  1人  1人  1人  2人  2人 | ケニア・ナイロビ市の青少年160人  日本の青少年12人、ネパール・バクタプル郡の青少年48人  U-19のネパールの女子サッカー選手20人、ネパールサッカー協会関係者16人  ネパールバクタプル郡の子ども50人  イラム郡の子ども38人  伊東市の小学生24人、一般28人  一般85人、開田8人、東京15人  ブータンのサッカー選手とスタッフ35人  ドイツのサッカー選手とスタッフ25人  モンゴルのサッカー選手13人  ポーランドのサッカー選手22人  日本人子供〜一般45人  現地のチームの選手12人コーチ5人、現地の日本人選手6人  伊東市の小学生14人、  ネパールの小学生11人 | 0  189  131  777  319  262  0  0  30  0  1,297    0 |
| ④職業能力、開発、雇用機会の拡充の支援から生まれる物販事業 | ・職の雇用機会拡充・環境などの社会問題を提起するためのネパールコーヒー販売 | 通年 | ネパール・パルパ及びシャンジャ郡  ネパール・カトマンズ市 | 2人 | ネパール・パルパ、シャンジャ郡のコーヒー栽培農家、カトマンズ市でコーヒー選別をする女性80人 | 2,583 |
| ⑤イベント主催、イベント出展、機関紙の発行などの普及啓発事業 | ・教育型サッカー大会（8歳以下）  ・夏の交流イベント  ・オンライン講座 | 11月25日、26日  7月22日  5月27日  6月17日  8月19日 | 小室山公園市民運動場  伊東市富戸グラウンド予定地  Zoom開催  Zoom開催  Zoom開催 | 42人  12人  5人  5人  5人 | 静岡県および近郊県のの小学生102人とコーチや保護者など一般100人  小学生17人、一般68人  一般25人  一般18人  一般24人 | 699  106  0  0  0 |
| ⑥目的を同じくする団体支援事業 | ・浦和レッズハートフルクラブの草の根活動「ハートフルサッカーin Asia」ネパールツアーの支援 | 8月9日〜10日 | ネパール・バクタプール郡の学校（Advance　school/Shankhadar Memorial School） | 2人 | カトマンズ近郊の学校の生徒260人 | 5 |
| ⑦その他目的を達成するために必要な事業 | ・農業体験プロジェクト | 8月１日〜  9月19日 | 長野県木曽町 | 1人 | 高校生１人、一般14人  木曽町の役所関係者、農業従事者、一般市民30名 | 0 |